

# 教宣 せぶん

## ノスタルジー（？）

先日、ある人と話していると、その人は、私たちのたたかひの原動力を「ノスタルジー（郷愁）」と評しました。要するに、古き良き日勤社時代が奪い去られることを拒んでいて、そこに固執してたたかっているということを言いたかったのだと思います。私たちのたたかひを「後ろ向き」と考えているのでしょうか。役職が上になればなるほど、経営に近くなればなるほど、こういう考え方の人は増えるのでしょうか。まさに企業論理です。

もちろん、時代が移り変わっていく時、捨てなければならない価値観はあると思います。のべつ幕なし、なんでもかんでもまもり切ることを主張していたら時代に取り残されてしまいます。しかし、逆に絶対にまもり切らなければならない一線もあります。その一線とは「雇用」であり「生活」です。会社がどんな抗弁を使おうが、今回の「通知・提案」の本質は「一時金を払うから代理店になりなさい」というものです。雇用を奪うものに他なりませんし、代理店になれば身分的にも、経済的にも大きな不利益を被ることは証明済みです。生活が破壊されかねない「通知・提案」です。

本当に働くものに対して責任をもつ経営者であれば、社員制度を維持していける工夫やアイデアを出せたはずです。そこにあったものは社員制度廃止ありき、外勤社員切捨てありきという、経営にとってもっとも安易な選択でした。心底、良い機会だと思って転進した人は別ですが、企業論理に押しつぶされ「上の言うことには逆らえない」と考え、自らの契約係社員としての道を断ち切った人がいるとすれば、企業論理から一步離れてものを見ることができれば違う世界が見えたかもしれません。少なくとも、会社の企業論理を法に照らし合わせてみてからでも、その判断は遅くなかったと思います。

私たちのたたかひはもちろん自分自身のためのたたかひです。しかし、同時に、日本で働くもののためのたたかひでもあります。こういう時代だからこそ、経済合理性のためなら働くものの「雇用」や「生活」を破壊しても構わないという企業論理が横行しかねません。損保のリーディングカンパニーでこのようなことが起きれば瞬く間に業界全体に広がるでしょう。私たちの運動や取り組みはこうした意味や使命をも持っています。だからこそ、他支部や他団体、他労組の大きな支援や共感が得られるのだと思います。

会社は私たちの動きを「後ろ向き」と評したいのかもしれませんが、どこを向いているかによって、何を大切にしているかによって、当然、「前」「後ろ」の基準も変わってきます。私たちは働くものの立場に立った労働組合です。ここに軸足がある以上、私たちのたたかひは常に、超「前向き」です。決してノスタルジーではありません。